文教福祉常任委員会

令和6年6月19日（水曜日）

文教福祉常任委員会

令和6年6月19日（水曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1号 令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項
- 議案第 2号 旭市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 3号 旭市が設置する専用水道の水道技術管理者の資格を定める条例の一部を改正する条例の制定について

《付託請願》

- 請願第 1号 「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願
- 請願第 2号 「国における2025年度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願

出席者（8名）

委員長	島田恒	副委員長	伊藤春美
委員	松木源太郎	委員	飯嶋正利
委員	宮内保	委員	伊場哲也
委員	常世田正樹	副議長	遠藤保明

欠席者（なし）

傍聴議員（1名）

議員 崎山華英

説明のため出席した者（20名）

教育長	向後依明	環境課長	高根浩司
保険年金課長	高野久	健康づくり課長	飯島正寛

社会福祉課長	向 後 利 胤	子育て支援 課長	八 馬 祥 子
高齢者福祉 課長	椎 名 隆	教育総務課長	向 後 稔
生涯学習課長	江波戸 政 和	スポーツ振興 課長	金 杉 高 春
その他担当 職員	10名		

事務局職員出席者

事務局長	穴 澤 昭 和	事務局次長	黒 柳 雅 弘
副主幹	菅 晃		

開会 午前10時 0分

○委員長（島田 恒） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまです。

昨日は結構大きな雨で、今日はこういういい天気になっています。昨日の大雨なんかでも市内の何か所かで冠水がありました。この地方というのは本当に平らなところですので、昔から排水とかということについては、積年の課題だなというところで、我々も注意しながら、そういうところも注意しながら仕事をしていかなければいけないのかなと思った次第です。

今日はクールビズの期間中でもありますので、委員会室内では上着を脱ぐなどして、暑い場合には調整していただきたいと思います。

ただいまの出席委員は7名、委員会は成立いたしました。

それでは、文教福祉常任委員会を開会いたします。

なお、崎山華英議員より本委員会を傍聴したい旨の申出がありましたので、よろしく願いをいたします。

本日、遠藤副議長にご出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○副議長（遠藤保明） 皆さん、おはようございます。

委員の皆さん、大変ご苦労さまです。

本日は、付託されました3議案と請願2件について審査をしていただくことになっております。どうぞ慎重なるご審議をお願いしまして、簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

それでは、島田委員長、よろしく願いします。

○委員長（島田 恒） ありがとうございます。

議案等の説明のため、教育長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して向後教育長よりご挨拶をお願いいたします。よろしく願いいたします。

○教育長（向後依明） おはようございます。

本日は、文教福祉常任委員会の開催、大変お疲れさまでございます。日頃より委員の皆様には多方面にわたりご指導、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。

本日の委員会に審査をお願いいたします議案は、全部で3議案でございます。その内訳でございますが、まず、予算関係が1議案、第1号、令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち文教福祉常任委員会の所管事項、次に、条例関係が2議案で議案第2号、旭市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、議案第3号、旭市が設置する専用水道の水道技術管理者の資格を定める条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

執行部といたしましては、委員の皆様からの質疑に対し、簡潔明瞭に答弁するよう努めてまいりますので、何とぞ全議案可決くださいますようお願いを申し上げます。

また、本日は人事異動後、初めての委員会でございますので、担当課長の紹介をさせていただきたいと思いますが、委員長、よろしいでしょうか。

- 委員長（島田 恒） よろしくをお願いいたします。
- 教育長（向後依明） それでは、順次自己紹介をさせますので、よろしくをお願いいたします。
- 教育総務課長（向後 稔） 教育総務課長の向後稔と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 環境課長（高根浩司） 環境課長の高根浩司と申します。よろしくお願い致します。
- 社会福祉課長（向後利胤） 社会福祉課長の向後利胤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 健康づくり課長（飯島正寛） 健康づくり課長の飯島正寛と申します。よろしくお願いいたします。
- 保険年金課長（高野 久） 保険年金課長の高野久と申します。よろしくお願いいたします。
- 子育て支援課長（八馬祥子） 子育て支援課長の八馬祥子と申します。よろしくお願いいたします。
- 高齢者福祉課長（椎名 隆） 高齢者福祉課長の椎名隆と申します。どうぞよろしくお願い致します。
- 生涯学習課長（江波戸政和） 生涯学習課長の江波戸政和です。よろしくお願い致します。
- スポーツ振興課長（金杉高春） スポーツ振興課長の金杉高春と申します。どうぞよろしくお願い致します。
- 委員長（島田 恒） ありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

議案の説明、質疑

○委員長（島田 恒） それでは、ただいまから本委員会に付託されました3議案の審査を行います。

初めに、議案第1号について補足説明がありましたらお願いいたします。説明、質疑については着座で結構ですので、よろしく申し上げます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（向後利胤） それでは、着座にて失礼いたします。

議案第1号、令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち、社会福祉課所管の事業について補足説明を申し上げます。

ページ数につきましては、タブレットのページにてご説明いたします。

11ページをお願いします。

歳出になります。下の表をご覧ください。

3款1項1目社会福祉総務費、説明欄1、物価高騰対応重点支援給付金給付事業2億2,500万円ですが、右側の説明欄をお願いします。

まず、1節の報酬から次の12ページにもわたりますが、1節の報酬から14節の工事請負費までが事務費となりまして、合計しまして700万円を見込んでございます。

その下の19節の扶助費2億1,800万円が、今回の3種類の給付金を合計したものです。

本事業につきましては、国が昨年度から実施している低所得世帯に対する支援の一環で、令和6年度に新たに住民税非課税、または住民税均等割のみ課税となる世帯が対象となっております。

そのため、先行実施した令和5年度での住民税区分を基準とした同様の給付金の対象となった世帯につきましては、今回の事業では対象外となっております。

また、基準日は、全国一律で令和6年6月3日と定められており、本市に住民登録があり、支給要件に該当する世帯が対象となります。

以上で議案第1号の社会福祉課所管の補足説明を終わります。

○委員長（島田 恒） ありがとうございます。担当課の説明は終わりました。

議案第1号について質疑がありましたらお願いいたします。

常世田委員。

○委員（常世田正樹） タブレット 12 ページの説明欄 14 の工事請負費、解体・撤去工事とは何を行うものでしょうか、教えてください。

○委員長（島田 恒） 常世田委員の質疑に対し答弁を求めます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（向後利胤） それでは、工事請負費についてお答え申し上げます。

こちらのほうは仮設の寄附金の受付会場を設けまして、そちらのほうに仮設の電話機のほうをつけております。前回からちょっと電話のほう、同じ回線を使っておるんですけども、その仮設の電話をもし撤去するとしたら工事が必要ですので、その仮設電話の撤去工事費としての2万円になります。

以上です。

○委員長（島田 恒） よろしいですか。

○委員（常世田正樹） はい。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑はありませんか。

松木委員。

○委員（松木源太郎） 第1号議案で今、社会福祉課長から説明があった件ですけれども、この基準日が変わったということで、どのぐらい人の移動があるんでしょうか。本会議で聞きましたけれども、数字のとおり扶助費、一番上が1,600世帯、2番目が450世帯、3番目の物価高騰対応重点支援給付金（子育て世帯加算分）が260人というご報告でしたね。基準日のことをちょっと私、失念していたんですけども、どういう形のものか。それから、これはこの数でもって確実なんですか、それとも移動が若干あるんですか。その点も含めてお聞かせいただきたいと思います。

○委員長（島田 恒） 松木委員の質疑に対し答弁を求めます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（向後利胤） 大きなところでは差はそんなにはないです。データ抽出を林議員からご質疑いただいたときに、私たしか4月24日ということで、そのデータを基に予算措置をしたということでございます。その後で基準日というのがただいま申し上げました6月3日ということで、数日のずれはございますが、そんなに大きなずれはないと思います。数としては非課税世帯等、対象世帯については最初捉えた数よりも若干目減りするような傾向になりますので、この予算を確保しておれば大丈夫な状況となっております。

以上です。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田 恒） 特にないようですので、議案第1号の質疑を終わります。

続いて、議案第2号について補足説明がありましたらお願いします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） 議案第2号につきましては、本会議において補足説明を申し上げたとおりでありますので、加えての説明はございません。よろしくお願いいたします。

○委員長（島田 恒） 補足説明はないということであります。

それでは、議案第2号について質疑がありましたらお願いいたします。

常世田委員。

○委員（常世田正樹） それでは、3点ほど質疑させていただきます。

タブレットの4ページです。看護師に准看護師を追加した理由について教えてください。

次、5ページです。調理室等に関する記述で、必要な体制を確保するよう努めるという、ちょっと曖昧な記述なんですけれども、どういうふうに体制を確保するよう努めるのか教えてください。

あと、6ページです。保育士と同等の知識及び経験を有すると市長が認める者と書いてあるんですけれども、どういった前職、例えば一回退職した保育士の方なのか、どういう目安とどうか、そういったものを教えてください。

○委員長（島田 恒） 常世田委員の質疑に対し答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） まず、准看護師についてですが、これは国のほうの基準に加えられたもので、それに準じまして市のほうの条例にも追加したものでございます。

すみません、次の調理室なんですけれども、ちょっとこちら後ほど回答させていただいてもよろしいでしょうか。

保育士と同等の知識なんですけれども、先ほど委員がおっしゃったように、退職した方ですか、あとは子育ての経験がある方とか、資格は特には問いませんので、そういった方を予定しております。

○委員長（島田 恒） 常世田委員。

○委員（常世田正樹） ありがとうございます。

4ページの准看護師を追加した理由が国の基準に準じてということなんですけれども、家庭

的保育事業に対して看護師の方が職として希望しないから対象幅を広げたということを私は想像したんですけれども、そういったことで国は追加したのか、ちょっとそこら辺を教えてください。

○委員長（島田 恒） 常世田委員の質疑に対して答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） すみません、国がそのところを追加した理由というのは、はっきりはちょっと分からないんですけれども、恐らく今、常世田委員おっしゃったような理由もありますし、これから人数を確保していくに当たり、やはり人数確保のために、そういった部分を加えていくということだと思います。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑はありませんか。

松木委員。

○委員（松木源太郎） かなり難しい問題なんで、本会議でも聞いたんですけれども、本会議でもおっしゃったように、この事業は旭市ではやっていないということですから、今回変わっても別に旭市の今の子育て支援課のほうには関係ないんだと思うんですけれども、ただ、ちょっと気にかかることがあったんでご説明いただきたいんですけれども、私そういうこともあるんでいろいろ調べてみたら、いわゆる要綱は平成26年4月30日付でもって、旭市子育て支援課が要綱を作っているんですね。それでこの要綱はなかなかいいものだなと思って見ていたんですけれども、この事業というのは今年の2月に作った子育て支援課のご覧になっている、令和5年度第2回旭市子ども・子育て会議の進捗状況報告書②、この中では4ページに地域型保育給付事業は実質的に令和1年からゼロだということですね。ですから、今回の改正は直接関係ないんですけれども、ただ、この事業というのを旭市の場合にどうしてやっていないのか。それから、この事業をやるということについては、どういうふうな条件が必要なのか、こういう問題をちょっと話していただきたいと思います。常世田委員と同じように、細かいことをずっと見ていったんですけれども、何だこりゃ、例えば建物の4階まで今度使えるようになるとか、いろんな詳しいことが書いてあるんですけども、それは結局今のやっているところでの話だから、それよりもむしろ旭市においては、何でこの事業がやっていないのか、やらなくてもいいのか。そういうことについてちょっと簡単に教えていただきたいということです。

○委員長（島田 恒） 松木委員の質疑に対して答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） この事業につきましては、新制度になったときに追加された事業でありまして、都市部などでの待機児童の解消や、人口減少地域では隣接自治体の認定こども園などと連携しながら、そういった小規模の子育て支援機能を持つところで、そういった事業体制を維持、確保するために設けられた制度でございます。

○委員長（島田 恒） 松木委員。

○委員（松木源太郎） ですから、今やっている小規模保育事業とか、事業所内保育事業とか、居宅訪問型保育事業とか、いろんな制度がありますよね。そういう中でも旭市においてはなぜこの家庭的保育事業というのはやらないで済んでいるのか。例えば今、市役所の中にある保育事業ありますね。ああいうもので代替しているということなのか、それとも旭市の保育に対する要求というのは、こういうものは今のところないという形の調査結果からやっていない。それからそういう事業者がやるということですね。そういう事業を計画するということがないということなのか、そこら辺の問題についてですけれども。

○委員長（島田 恒） 質疑に対して答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） 松木委員、今おっしゃったようなことなんですけれども、この事業につきましては、旭市では待機児童は発生しておりませんので、今の体制で充足していると思われるということと、あと事業者からの申出もございませんので、旭市ではこの事業はやってございません。

ただ、付け加えますと認可外の事業所はございます。例えば中央病院の中ですとか、ヤクルトさんですとか、そういったところではやられているところはございます。

以上です。

○委員長（島田 恒） ほかにございますでしょうか。

（発言する人なし）

○委員長（島田 恒） 暫時休憩。

休憩 午前10時21分

再開 午前10時23分

○委員長（島田 恒） 再開いたします。

先ほどの保留の部分の答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） 申し訳ございませんでした。

先ほどの常世田委員の調理室の体制の関係の回答なんですけれども、体制を確保するよう努めなければならないというところなんですけれども、それはどういったことかというのは、人の配置ですとか、あと一応そのやっているところでの調理が原則になりますので、調理ができるような設備、例えばコンロですとか流しですとか、そういったものを備えるということでございます。

以上です。

○委員長（島田 恒） よろしいでしょうか。

常世田委員。

○委員（常世田正樹） 大筋分かりました。家庭的保育事業って多分小規模で都市部でもやられていると思うんで、これは配食でお弁当を取ってしまったほうが早いという事業者の方のほうが結構多くて、逆に何て言うんですかね、保健所の許可とか、そういうのを取るというハードルがかなり高いようなことを聞いたことがあります。ただ、旭市ではやっていないんであれなんですけれども、いろいろ調べてくださってありがとうございます。

○委員長（島田 恒） 答弁よろしいですね。

○委員（常世田正樹） はい。

○委員長（島田 恒） そのほかございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田 恒） 特にないようですので、議案第2号の質疑を終わります。

続いて、議案第3号について補足説明がありましたらお願いいたします。

環境課長。

○環境課長（高根浩司） 議案第3号につきましては本会議において補足説明のほうを申し上げたとおりでありますので、本委員会での加えての説明はございません。よろしく申し上げます。

○委員長（島田 恒） 補足説明はなしということで、議案第3号について質疑がありましたらお願いいたします。

松木委員。

○委員（松木源太郎） 議案第3号が、なぜこの委員会の所管になったのかというところでは

れども、水道技術管理者が今度、所管省が変わるということが理由なんですか。

それから、基本的な改定の理由ですけれども、いろいろこう見てみますと、かなり経験を積んでいる人の学歴とか、そういうのとかいろいろ詳しいことがかなり変更になっているんですけれども、そういうような形でもって、かなりいろんな広範囲に該当者を拾えるようにというのか、職員の中から採用できるようになったということなのか。旭市においては水道事業において、この管理者の候補者である方とか管理者に指定されている方が今、何名ぐらいいるのか、そこを教えてくださいたいと思います。

○委員長（島田 恒） 松木委員の質疑に対して答弁を求めます。

環境課長。

○環境課長（高根浩司） 何点かご質疑がありまして、最初のなぜこの文教福祉常任委員会の所管になったのかということですが、この専用水道につきましては上下水道課の所管でもおかしくないと思っておりますけれども、水質とか、あと衛生に関する事務、衛生管理、設備の衛生管理など、そちらを担当するというので環境課の所管ということになりました。

（「それは昔からですか」の声あり）

○環境課長（高根浩司） これはもともと県のほうの所管でありまして、この条例自体が平成25年にできているので、県から下りてきた事務ということで、そのときに環境課のほうで専用水道のほうは受けるというような、そういう形になりました。よろしいですか。

あと、もう1点、基本的な改定の理由ですけれども、補足説明のときにも申し上げたんですが、なかなか職員数の減少で技術者の確保が困難ということなんですが、これはそういう資格の緩和という部分で、なるべく経験年数等で多くの方にそういった資格を取ってもらうということの意図がございます。

あと、もう1点、職員で何名いるかということなんですが、まず環境課にはその資格保持者はおりません。申し訳ありませんが、ちょっと私どもそこについては把握しておりませんので、これにつきましては後でまたお答えするという形でよろしいでしょうか。

○委員長（島田 恒） 松木委員。

○委員（松木源太郎） ありがとうございます。1点目の問題は分かりました。

2点目の問題なんですけれども、結局資格的にはかなり申請してできる方が広がっているということは分かるんですけれども、では旭市は、上下水道課には、送水している水の量に関わるんでしょうけれども、この資格が条件として必要なんでしょうか。このところが一番の問題だと思うんですけれども、そういう資格者がいるのか、これから育てるのか、そう

いうことをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○委員長（島田 恒） 質疑に対して答弁を求めます。

環境課長。

○環境課長（高根浩司） まず、この専用水道でございますが、現在のところ旭市が設置する専用水道というのはございません。ですから、その資格、あくまでこれは上位法令の施行と改正がありまして、それに基づいて市の条例のほうを直させていただきました。どちらかというと水道部門のほうの問題になると思うんですが、ですから、ちょっとそういったこれから育てる予定というか、そういったのはこちらのほうはまだ考えていない状況です。

○委員長（島田 恒） 松木委員。

○委員（松木源太郎） この条例の専用水道というのは、旭市がやっている水道ではなくて、いわゆる自治体ができるけれども、ああいう水道ではなくて、昔旭市でやっていたような地域による水道とか、そういうことですか、その専用水道というのはどういう事業ですか。

○委員長（島田 恒） 環境課長。

○環境課長（高根浩司） 専用水道ですけれども、水道法の第3条第6項に定義されておりまして、有効容量が100立方メートルを超える受水槽、そういったのを備えている施設とか、あるいはその受水槽以降の導管の延長が1,500メートルを超える施設といったのが該当になりますので、今のところ現在、旭市ではございません。

○委員長（島田 恒） よろしいでしょうか。

環境課長。

○環境課長（高根浩司） あと、先ほどの答弁漏れがありまして、資格のほうの関係ですけれども、現在、上下水道課のほうに2名おります。

○委員長（島田 恒） よろしいでしょうか。

伊藤委員。

○委員（伊藤春美） 資格の緩和ということですが、ちょっとお聞きしたいんですが、水道技術管理者の資格というものは有効期限はあるのでしょうか。

○委員長（島田 恒） 伊藤委員の質疑に対して答弁を求めます。

環境課長。

○環境課長（高根浩司） 特に有効期限をうたった部分はございませんので、その学科のほうの課程を修了して、あと経験年数、それを有していれば、こういった有資格者になれるということで、特に有効期限のほうは定めていないと思います。

○委員長（島田 恒） よろしいでしょうか。

伊藤委員。

○委員（伊藤春美） 資格を取得のときではなくて、取ってからの有効期限とかはない。ありがとうございます。

○委員長（島田 恒） よろしいですか。

その他、質疑ございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田 恒） 特にないようですので、議案第3号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終了いたしました。

議案の採決

○委員長（島田 恒） これより討論を省略して議案の採決をいたします。

議案第1号、令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（島田 恒） 全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第2号、旭市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（島田 恒） 全員賛成。

よって、議案第2号は原案のとおり可決されました。

議案第3号、旭市が設置する専用水道の水道技術管理者の資格を定める条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（島田 恒） 全員賛成。

よって、議案第3号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

- 委員長(島田 恒) ありがとうございます。ご異議ないようですので、委員長報告は委員長一任とさせていただきたいと思います。

所管事項の報告

- 委員長(島田 恒) 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告をお願いいたします。

教育総務課長。

- 教育総務課長(向後 稔) 教育総務課より、学校再編の進捗状況についてご報告を申し上げます。

まず、(仮称)干潟地域小学校の学校再編代表者会議ですが、学校再編だよりでもお知らせしておりますが、これまでに5回の会議を開催した結果、萬歳小、中和小及び古城小の統合については賛成となり、統合の位置については古城小学校、開校の予定時期については令和9年4月となりました。

現在、統合校の名称について、6月10日から7月19日の期間において、干潟地域の児童・生徒や保護者、地域住民などに募集をしているところでございます。

また、6月24日には準備委員会を設置し、今後、校歌・校章、通学方法及び学校運営など、開校に向けて具体的な内容について、継続的に協議をしていただく予定でございます。

次に、その他の地域につきましては、海上地域の小学校の再編に係る地域説明会を6月6日に海上公民館で開催し、旭市学校再編基本方針の概要と海上地域小学校の再編計画及び保護者アンケートの結果について説明してまいりました。

海上地域については、令和9年頃に滝郷小学校で複式学級の可能性があるため、今後、嚶鳴小学校、鶴巻小学校及び滝郷小学校の各小学校に地域検討会議を設置し、今後の学校再編に向けて様々な意見、要望を伺いながら、合意形成に向けて取り組んでまいります。

以上で教育総務課からの報告を終わります。

○委員長（島田 恒） そのほかございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、担当課の報告は終わりました。

所管事項の報告を終わります。

ここで教育総務課以外、執行部は退室をお願いいたします。

大変ご苦労さまでした。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちいただきたいと思います。

休憩 午前10時36分

再開 午前10時38分

○委員長（島田 恒） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

請願の審査

○委員長（島田 恒） 次に、請願の審査を行います。

去る6月11日の本会議におきまして、本委員会に付託されました請願は請願第1号、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願、請願第2号、「国における2025年度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願の2件であります。請願第1号、請願第2号につきましては毎年同様の請願が提出されており関連がありますので、一括して審査を行います。

初めに、紹介議員でございます伊場哲也議員より、昨年と比較しまして変更点等ございましたら説明をお願いいたします。よろしく願いいたします。

○紹介議員（伊場哲也） それでは、よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

ただいま委員長のほうから昨年度と変わった点というお話がございました。昨晚、皆様方のお手元にLINEWORKSを利用して、説明内容の資料をPDFファイルでお届けしておきました。ご覧になっていただきましたでしょうか。

2年前は議会DX化が図られておりませんので、昔懐かしいこのスケッチブックを利用して
請願内容を説明させていただきましたけれども、このたびは皆様方、タブレットを開いてお
りますように、添付ファイルをご覧いただきながら、若干の説明をさせていただきたいと思
います。

まず、請願者につきましては記載のとおりでございます。子どもたちの豊かな育ちと学びを
支援する教育関係 21 団体、会長が替わっております。県連絡会、田中弘美先生ということで、
会長が替わっておりますので、ここで請願者代表の名前が変わりましたよということを申し
述べさせていただきます。

次のスライドを開けてください。今さら言うまでもなく、毎年この時期に議会にいわゆる請
願書を提出させていただき、承認をいただき、そして関係団体に意見書ということで提出を
させていただいているということにつきましては、ご承知のとおりです。

国内の小学校、中学校のいわゆる現職の先生方におかれての義務教育費国庫負担制度とい
うものでございます。これが堅持されないとどういうことになるのかということで、スライド
3 番目、憲法第 26 条を踏みにじるものになりかねませんよといったこと、そして現実はかつ
て、これは平成 17 年度でしたか、三位一体改革の前の段階では、義務教育費なるものを国の
ほうで2分の1負担していたんですね。ところが国の財政の逼迫化、もちろん都道府県、市
町村においても、決して財政が豊かではないのですけれども、国の施策として義務教育であ
る小学校、中学校の教職員給与を3分の1を国が負担するという仕組みに変わりましたんで、
これをしっかりと今現在、課題となっているのは2分の1にまた戻すという声が改善策で出
ておりますけれども、現状は教職員給与の3分の1を国が負担すると、そういう仕組みにな
っているものでございます。したがって、今回の請願につきましては、しっかりとこの
国庫負担制度をしっかりと守っていただきたいと、堅持してもらいたいということですね。

しかしながら、現実問題はこれ皆様ご存じのとおり、では先生方の給与を補助したからとい
って、義務教育をいわゆる受ける保護者の立場になって考えたときには、これは隠れ負担と
いうものが実質ございまして、教材費ですとか給食費も含めてですけれども、等々のいわゆ
る子弟を教育するのにお金がかかっていると、そういう実態がございまして、各都道府県、
国もはじめ各都道府県、市町村で様々な教育費の支援、補助というものが言われているわけ
ですね。

いずれにしましても、教育、今さら言うまでもありませんけれども、未来を担う子どもたち
の心、豊かな健全育成、これが憲法に基づいての狙いでもございますし、今回出されてお

ます義務教育費国庫負担法、この第1条の堅持、教育の機会均等、教育水準の維持向上、これも絶対になくしてはいけないというものでございます。

特に昨年、一昨年と大きく変わっている点は次年度、2025年度教育予算拡充に関する意見書採択に関する請願、この内容が大きく変わっておりますので、箇条書の形にはなりませんけれども、読み上げをさせていただきます。

一つ、教育復興にかかわる予算を拡充してもらいたいと。

二つ、教職員の定数改善を引き続き求めるというものでございます。

3、ただいま申し上げましたように、保護者の教育費負担軽減を求めるという内容でございます。

4、就学援助や奨学金事業の拡充に関する要望。

5、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー体制の学校現場における体制の充実を求めるという内容でございます。

6、個別最適化学習を一層推進したいという内容でございます。

最後、7点目でございますけれども、GIGAスクール構想の着実な推進と、それから学校現場におけるDX化の加速化。

以上、7点を次年度、2025年度教育予算拡充に関する意見書採択に関する請願ということを出されているものでございます。

以上でございます。何かご質問等あればお出し願いたいと思います。

○委員長（島田 恒） 伊場哲也議員の説明が終わりました。

それでは請願第1号、請願第2号についてご意見がありましたらお願いいたします。

松木委員。

○委員（松木源太郎） 毎年出していただいていた大変結構なことだと思うんですけども、ただ、私ちょっとここで気になるのは、今、教職員の時間外手当の問題で4%の切り捨てでもってやられていますね。これをどう改善するかが国会でも大変議論になっているわけですけども、その点についての意見というのは、この請願の中には入れられないのでしょうか。実際10%に仮にしたとしてもね、かなり残業手当についてはいわゆる今の教育、先生方の勤務状況を抜本的に変えないと難しいんだという話の一つあって、それからもう一つは、先生になる方が減ってきてしまっているんで、千葉県においても必ず、旭市においても年度初めには2校か3校、教員が配置されないということが起こっているんですけども、これらの問題については、この請願を出した団体の方々はどうな考えでもって、この7点に結びつけたのか、

簡単に説明してください。

○委員長（島田 恒） ご意見ありましたけれども、伊場議員のほうはよろしいでしょうか。

○紹介議員（伊場哲也） それでは、4%から10%、この点についてのみ請願団体と面接をしたときに、私のほうから質問させていただきましたので、その点についてご回答申し上げます。

そして、今、松木委員からございましたように教育課題、社会現象も踏まえた、この点につきましては、教育総務課長並びに指導室長が控えておりますので、彼らからご回答いただけるものであるならば、ご回答いただくという形でお願いしたいと思っておりますけれども。

今回も義務教育費国庫負担制度の堅持、併せて2025年度の請願をお出しになるんですかと、ぜひお願いしますと。例の教職調整額4%、今、国会も含めて議論中であって結果は出ていないけれども、そういったことも踏まえての請願の提出なのか、ましてや今、学校の先生方のいわゆる働き方改革、そして先週あたりの新聞にも出ておりましたけれども、採用試験の前倒し等々、これらを踏まえてという話をしましたところ、結局、教職調整額4%が10%に決まっているものでもありませんのでね。ですので、引き続き提出を、請願をお願いするということについては変わらないという回答でございました。

以上でございます。

○委員長（島田 恒） よろしいでしょうか。

松木委員。

○委員（松木源太郎） 伊場議員がそこまでいろいろ聞いていただいて、ありがとうございます。やはりこのような請願を出す場合に、当然各自治体でもって教職調整額とか、それから時間外労働の問題とか、これだけ国も含めて協議会で大きな問題になっていることを抜いて、その意見書を出すというのは、かなり私は厳しいんだと思うんですよ。この7点について私は了解しましたけれども、そこら辺の問題とか、それから毎年必ず県内は私のところにも県議団から資料が来るんですけれども、旭市の場合は1校か2校、多いときはもうちょっと多いんですけれども、4月1日現在の先生が足りない。地元でもって予算をつけて探せば何とかかなるだけけれども、そのままでもって、教頭が代行してやっているとかという、そういう事件が起こっているんでね。これをやっぱり解決するというのも頭に入れた意見書になってくれればなと思っていましたんで、お聞きしました。ありがとうございます。

○委員長（島田 恒） それでは、請願に対するご意見ということで受け取らせていただいてよろしいでしょうか。

ほかにございますか。

(発言する人なし)

○委員長(島田 恒) 特にないようですので、請願第1号、請願第2号の審査を終わります。

ここで教育総務課は退室してください。

大変ご苦労さまでした。

しばらく休憩いたします。委員の皆様は自席でお待ちください。

休憩 午前10時50分

再開 午前10時51分

○委員長(島田 恒) 休憩前に引き続き会議を開きます。

請願の採決

○委員長(島田 恒) それでは、討論を省略して採決いたします。

請願第1号、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願について、採択とするに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(島田 恒) 全員賛成。

よって、請願第1号は採択と決しました。

続いて、請願第2号、「国における2025年度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願について、採択とするに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(島田 恒) 全員賛成。

よって、請願第2号は採択と決しました。

以上で、本委員会に付託されました請願の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありま

せんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(島田 恒) ありがとうございます。ご異議ないようですので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長(島田 恒) 以上で本日の日程は終了いたしました。これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

閉会 午前10時52分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会文教福祉常任委員会委員長 島 田 恒